

本学習指導案のポイント（ 高校教育指導課 指導主事 中村 蒼子 ）

- 自らの考えや価値観、条件を踏まえて、限られた中から物件を選択させる場面を設けることによって、物件情報を見る視点が多面的・多角的に広がる授業となっていた。
- 住宅の選択が住要求の違いに応じてどのように変わるのか、個人で考えたりペアで協議したりする手立てがデジタル機器を活用して効果的に進められており、生徒の思考が深まっていた。

- 1 実施日：令和7年11月20日（木）5限：13時30分～14時20分（50分）
- 2 学年・学級：1学年1組（40名）
- 3 単元名：住生活の課題について考える
- 4 単元について

(1) 単元観

住居は日々の生活の拠点であり、ライフスタイルにも密接に関連するため将来を見据えた知識や思考力が必要である。「2024年住まいと資産形成に関する意識と実態調査」（三井住友信託銀行）によると、18～29歳の過去3年以内の住み替え経験は51.7%となっている。また、18～29歳の賃貸への住み替え理由は、「勤務先への通勤を考えた」が36.7%、「家族構成の変化を考えた」が26.1%、「進学先への通学を考えた」が14.4%ということがわかった。この結果から、高校を卒業する18歳から29歳までが、新たな勤務先の都合や結婚等で家族構成が変化することにより住居を選択する機会が多いことが分かる。よって現時点将来の住居や住まい方について学ぶ意義が大きい。

本題材では、学習指導要領のB 衣食住の生活の自立と設計(3)住生活と住環境「A ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けること。」を目標としている。生徒がこれまでの住生活を振り返ったり、これからの住生活を構想したりしながら、住まいの重要性を考え、単身世帯や家族を持った時など主体的にライフステージごとに豊かな住生活を考えられるようにする。

(2) 生徒観

1年1組の生徒は、授業に積極的に取り組んでおり、意見なども多く出るクラスである。また、ペア活動になるとより積極的に発言をする生徒が多い。10月の住生活に関するアンケート調査によると、「高校卒業後、1人暮らしの予定がある」と回答した生徒は94.3%であった。一方、「住生活分野に興味がある」と回答した生徒は60.8%と1人暮らしを行う割合に対して低い数値を示したことから、住居の設計、管理等に必要な知識・技能を身に付けさせ、ライフステージに応じた住生活について検討させる機会が必要である。

(3) 指導観

指導にあたっては、生徒の既存の知識に着目し、将来どのような住生活を送りたいか思考させる過程を通して、実感をもって主体的に学びに向かうことができるようにする。

具体的には、将来の住生活を考える際に、「このライフステージでは、この住まい方が適切である」と生徒自身が検討できるよう平面図の読み取りや初期費用等、1人暮らしをするためにはどのような知識が必要なのか、実際の検討ができる学習となるようにする。個人ワークやペアワークで課題を見出させる過程を通して、ライフステージに応じた住生活を検討する必要があることにも気付かせたい。

5 単元の目標

- (1) 自立した生活を営むために必要なライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解するとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上をめざして実践しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

6 単元の評価規準〔例〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自立した生活を営むために必要なライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ・住居の計画・管理に必要な知識・技能を身に付けている。	・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上をめざして実践しようとしている。

7 指導と評価の計画（全5時間）

次	学習内容（時数）	評価				
		知	思	態	評価規準	
1	住居の機能と変化（1時間）	○	○		・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて住居の機能や住要求を理解している。	ワークシート・ペアワーク
2 3	平面図を理解する 住居の計画（2時間） 本時・・・2/2時間目	◎	○		・ライフステージごとの住居の計画、管理に必要な知識を身に付けている。 ・住宅情報を読み取り、条件に合った住宅を選択することができる。	ワークシート

4	安全で快適な住生活の計画 (1時間)	○	○	・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解している。 ・自らの住生活の課題について、解決策を構想している。	ワークシート	
5	住生活の文化と知恵、これからの住生活 誰もが住みやすい住居とまち (3時間)		○	◎	・持続可能な住居や、地域やまちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について考察し、表現している。 ・安全や環境に配慮した住生活や住環境について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	ワークシート・グループワーク 平面計画シール

※◎は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点、**記録**は、記録に残す評価

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・住居の計画・管理に必要な知識を身に付けている。【知識及び技能】
- ・住宅情報を読み取り、住要求に合った住宅を選択することができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 観点別評価規準

- ・ライフステージごとの住居の計画、管理に必要な知識を身に付け、自分の住要求に合わせた住宅の選択ができています。
【知識・技能】【思考・判断・表現】

(3) 準備物 教科書、ワークシート、資料集、タイマー

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て	評価場面 (評価方法) 【評価の観点】
導入 10分	○ワークシートの確認 1 アンケートのデータの確認と前時のワークシートの確認をする。	出席の確認を行う。 ○ワークシートの配布、確認 ○「住生活分野に興味がある」と「高校卒業後、1人暮らしの予定がある」と回答した人のデータを比較する。住居は毎日関わりがあり、部屋選びを考えることで、新生活がより楽しみになる可能性が高くなる。そのためにも今から家の住要求を考えておくことで将来の住生活に役立つということを意識付ける。また、前時のワークシートの住要求を確認する。	
展開 35分	2 ライフステージに関する動画を見る。 3 目標の確認 ・本時の目標をスライドで提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">住宅情報を読み取り、住要求に合った住宅を選択しよう。</div>	○動画を見て、ライフステージの確認と多くの経験が住生活に関係していることを確認する。 「変わらないもの(パナソニックホームズ)」	
展開 35分	4 間取りや平面図の意味を確認する。 5 平面表示だけで読みとることができると読みとることができないことを確認する。 ・平面図から読み取ることができることに丸、読み取ることができないことは考え、記述する。 ・個人 記入3分 ・ペアワーク 3分	○間取り、平面図に関するクイズを行い、頻出のものから見る視点として重要な平面表示記号を3点理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">予想される答え ○読み取ることができること 部屋の形や数、広さ、設備、収納空間、出入り口 ○読み取ることができないこと。 騒音、周辺施設、壁紙の色、においなど情報だけではわからないことを認識させる。</div>	
展開 35分	7 自分らしい住まい方を考える。 ・実際に住むことを想定する。 ・最寄り駅や部屋の向きについて確認する。 ・住む人数と年数を決め、物件を選択した理由を考え、ワークシートに記述する。 ・個人ワーク 10分 ・ペアワーク 5分	○住要求で記述したことを思い出させながら、将来の生活と関連付けて、物件を見るように伝える。 ○部屋の中だけではなく、周辺地域や環境のことも考えるよう促す。 ○ライフステージによる変化を考えさせる。 5つの物件の中でどれを選択するか問いかける。	
展開 35分	8 まとめ ・ワークシートNo. 2 3 に記述する。 ・ペアワーク 2分 ・全体へ発表 2名	予想される答え ・家賃が安く、5つの中で1番窓が多い。 ・家賃は高いけど、ひと部屋が大きい。 ・家賃が程よく、収納が多い ○本時のまとめを行う。	
展開 35分	9 振り返りシートの記入を行う。	・ライフステージの変化により、住要求は変化する。 ・物件情報だけでなく、内見することで雰囲気や実際に住んだ際のイメージが具体的に。	ライフステージごとの住居の計画、管理に必要な知識を身に付け、自分の住要求に合わせた住宅の選択ができています。【知識及び技能】【思考・判断・表現】(ワークシート)】

(5) 判断基準

評価	知識・技能	思考・判断・表現
A(十分満足できる)	住居の計画・管理に必要な知識を身に付け記述の根拠に活用している。	住宅情報を読み取り、ライフステージや住要求に合った住宅を多面的に判断して選択し、具体的に記述することができている。
B(おおむね満足)	住居の計画・管理に必要な知識を身に付けている	住宅情報を読み取り、ライフステージや住要求に合った住宅を選択し、記述することができている。
C(努力を要する)	住居の計画・管理に必要な知識の習得が不十分である。	住宅について、記述することができている。